

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ウルルード・ズンベル

氏名のローマ字表記：Zumber Orluud

所属：昭和女子大学大学院、生活機構学専攻（博士後期課程）

専門分野：社会言語学、モンゴル語

発表のタイトル：1912年の「露蒙協定」におけるモンゴル語術語の分析

発表要旨（600字～800字程度）：

1911年12月に外モンゴルが中心となってモンゴル独立運動を起し、それによりボグド・ハーン政権が樹立された。そして1912年11月3日、モンゴル政府と帝政ロシア全権代表コロストヴェツは、「露蒙協定」と、ロシア側の商工業の様々な特権を認める「附属議定書」に調印し、モンゴルは近代において初めて国際条約の調印を経験した。当該協定に関しては、政治や外交史の研究のほか、協定における「自治」や「独立」などのロシア語とモンゴル語の表記法にみられる翻訳概念に関する研究がなされてきた。

一方、協定と附属議定書のモンゴル語とロシア語のテキストを対照すれば、上記二つの用語の以外にも、例えば「政府」を表すモンゴル語が *jasay-un yaĵar*、*jasay-un kereg sidgekü yaĵar*、*jasay-un yamun* のように訳語が多様であった。また、*yerüde-yin keltes*（施設、байгууллага）、*ed bolbasurayulqu*（工業、аж үйлдвэр）、*yaĵca nigen kümün*（個人、хувь хүн）などの基礎的な術語も、現代モンゴル語と明らかに異なることがわかる。このような基礎的術語はほかにも存在し、1913年の「蒙蔵条約」、1915年の「キャフタ協定」にも確認できる。

20世紀初期のモンゴル語定期刊行物により、漢語直訳型のモンゴル語近代語彙が登場するようになったことが知られているが、こういった語彙はボグド・ハーン政権期の行政や出版において、実際どのように使用されていたかに関する研究はまだなされていない。

本発表では、1912年の「露蒙協定」およびその附属議定書のロシア語とモンゴル語のテキストにおける語彙を比較し、その特徴を考察した結果を報告する。本研究は、ボグド・ハーン政権期のモンゴル語刊行物、またそれ以降のモンゴル語術語（нэр томъёо）の生成を考察するための土台として位置づけられる。